

プロジェクト情報

- 国名：ニジェール
- 事業名：住民参画型学校運営改善計画（みんなの学校プロジェクト）フェーズ 1 & 2 / みんなの学校：住民参加による教育開発プロジェクト（技術協力プロジェクト）
- 協力期間：2004 年～2010 年 / 2012 年～2016 年
- 相手国機関：国民教育・識字教育・国語推進省

1. プロジェクトの概要・背景

サハラ以南アフリカ諸国の中でも最貧国の一つであるニジェールの初等教育の総就学率^{*}は、2013 年現在 82% で、世界で最も就学率の低い国の一つです。低い就学率の背景には、学校数の絶対的不足とともに学校に対する地域住民・親の理解不足があります。ニジェール政府は、校長、教師代表、保護者代表、母親会代表からなる、住民参加による学校運営委員会を各校に設置し、学校に対する理解促進を図っていましたが、多くの学校運営委員会は十分に機能していませんでした。そこで、JICA はニジェール政府とともに、2004 年から「みんなの学校プロジェクト」を実施し、住民参加による学校運営のモデルを確立するとともに、そのモデルを全国に普及するための支援を行ってきました。その結果、全国の全ての小学校（約 13,700 校）で学校運営委員会が設置されるとともに、学校運営委員会を中心に、住民の力のみで教室が建設されたり、不足教材を購入したりするなど、さまざまな活動が実施されるようになりました。このような大きな成果が得られた要因として、プロジェクトの支援の下、住民が選挙を通じて自分たちの中から学校運営委員を選んだり、住民自身による学校活動計画の作成、学校の備品管理を住民自身が担う等、「自分たちの学校」「地域の学校」という意識が芽生え、その意識の変化が住民自身による活動につながったことが挙げられます。

現在実施されている「みんなの学校：住民参加による教育開発プロジェクト」では、対象を中等教育まで広げ、教育の質とアクセスのさらなる向上のために、学校運営委員会の活動を支えるための支援体制づくりと、学校運営委員会への補助金や算数ドリル活動などの住民参加を通じた児童の学力改善活動のモデルづくりを行っています。

^{*}総就学率とは、学齢相当人口の総数に対する年齢を問わないすべての就学者数の割合。ニジェールの場合、7 歳から 12 歳の人口に対する、小学校に在籍している児童数の割合。

2. ジェンダー視点から見たニジェールの基礎教育

ニジェール政府による「教育開発 10 カ年計画 2003～2012」の開始以来、初等教育における男女間格差には顕著な改善が見られるものの、2010/11 年度の初等教育の総就学率は、男子 85%、女子 67%、修了率は、男子 60%、女子 43% と、依然として格差があり、多くの女子が初等教育を終えることなく学校を中退していることがわかります。女子の初等教育の就学率や修了率が低い理由として、家事や親の手伝いをしなければならないこと、親の教育への理解のなさ、女子よりも男子を優先して通学させること、教育は無償でも文房具や制服代を負担しなければならないこと、などが挙げられています。

前期中等教育（7～10 年生）の総就学率は、2008/9 年度において、男子 20%、女子 13% と依然として低く、男女間格差にも大きな改善は見られません。中等教育に進学する段階で女子の就学率が一段と低下する主な理由としては、早期婚と、中等教育施設が都市部に集中しているため、家から遠い都市部の中等学校へ娘を通わせることへの親の反対などが挙げられます。

3. ジェンダー視点に立った取り組み

(1) 女子就学促進キャンペーン

ティラベリ州とマラディ州では、2009 年に、学校運営委員会と教育関係者が一丸となり、女子の就学を促進するためのキャンペーンを実施しました。その結果、小学校の入学登録児童の男女比が、キャンペーン前は、ティラベリ州では男子 100 に対して女子 87、マラディ州では男子 100 に対して女子 74 だったのが、それぞれ 100 対 97、100 対 85 と、大きく改善しました。キャンペーンを実施しなかった他の州では、男女比にほとんど改善が見られなかったことから、この女子就学促進キャンペーンが、地域社会の女子教育への理解促進に大きな役割を果たしたことがわかります。2015 年には、同様の取り組みが隣国ブルキナ・ファソでも行われる予定です。また、演劇や合唱を通して、住民や児童自身が教育の大切さを伝え合うという、住民が主体となったイベントも実施され、女子の就学への理解促進に貢献しています（裏面参照）。

(2) コミュニティ幼稚園

学校運営委員会が運営主体となるコミュニティ幼稚園は、プロジェクトにより 2006 年に導入された後、国連児童基金（UNICEF）との連携の下急速に拡大し、2010/11 年度には全国で 446 園が運営され、園児

の数は2万人を超えています。一般に、幼稚園をはじめとする就学前教育は、初等教育への就学率や学力、進級、留年率や退学率の改善に良い影響を与えることが知られています。これは、児童の就学前教育による身体的・心理的成長や知識の習得とともに、自分の子どもの潜在能力に対する親の認識や期待が変化したためと考えられています。また、就学前教育は、もともと初等教育の就学率が男子よりも女子のほうが低い場合、女子の就学率により良い影響があるとも言われています。2010/11年度のコミュニティ幼稚園に在籍する女兒の割合は52%で、過半数を超えています。プロジェクトが調査したタウア、

ザンデルの両州のコミュニティ幼稚園に通った園児のほとんどが小学校へ進学していることを考えると、コミュニティ幼稚園による就学前教育の拡大は、初等教育における女子教育の推進に大きく貢献したことがわかります。

ニジェールでは、親や地域住民が学校運営に参加することにより、男女両方の就学率の向上や学校の教育環境の改善につながりました。親の子どもを学校に通わせたいという前向きな気持ちが後退しないためにも、プロジェクトでは、今後、児童の学力の向上を目指して活動していきます。

「お母さん、お父さんへ。私たちが学校へ行かせてください。」

- ♪ 私たちは、あなたに伝えたいことがあります。
- ♪ 女性だって、生きるために教育を受けることが必要なのです。
- ♪ 女子の就学率が低いのは、女性が弱からず。
- ♪ この世に、私達に、もう無知は必要ありません。
- ♪ 私たちを学校へ連れて行くこと、
それが、お母さん、お父さんに私たちが伝えたいことです。
- ♪ 時がたち、学校へ行けなかった子どもたちが可哀相だと気付くのです。
- ♪ 私たちはあなたたちの後ろで泣いています。
お願いします、学校へ行かせて、と。
- ♪ ニジェールは私たちの国。私たちはニジェールの子ども。
- ♪ 私たち子どもは立ち上がり、学校へ連れて行ってと叫んでいるのです。
- ♪ ねえ、先生も私たちの声に耳を傾けてください。
- ♪ ニジェールは私たちの国。そして私たちはニジェールの子ども。
- ♪ ねえ、お願い、私たちをあなたの手で、私たちに教育を与えてください。
- ♪ お願いします。私たちを学校に入れてください。



左の歌を歌った
サルナワ中央小学校の児童たち

これは、2005年2月にサルナワ市で、プロジェクトが支援した学校運営委員会と住民、教師、児童が集い、住民が主体となって開催された「学校運営委員会対抗演劇合唱コンテスト」の中で、サルナワ中央小学校の女子児童が現地語（ハウサ語）で歌ってくれた歌詞の日本語訳です。翻訳なので伝わりにくい部分もあるかもしれませんが、学校に行きたくとも行けない女子児童の切ない気持ちを表現しています。

この歌は、住民（児童）が、自分たちで自分たちの教育の問題を考え、その問題を村の人たちに伝えるために作った歌です。だからこそ、その村の「お父さん、お母さん」の心へも届く歌となりました。そして、その歌詞が稚拙でも、同じ状況に置かれている女子児童やその親がニジェールのどこの村にもたくさんいるという意味で、どこの村でも女子就学促進のための啓発の歌となり、どんなプロが作った歌より女子児童就学促進の有効な武器となり得るのだと思います。